

# 社会技術研究開発 平成23年度募集説明会 「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」

## 提案書作成の留意点



平成23年5月12日

RISTEX フェロー  
澤谷 由里子

RISTEX

## 全体的な留意事項



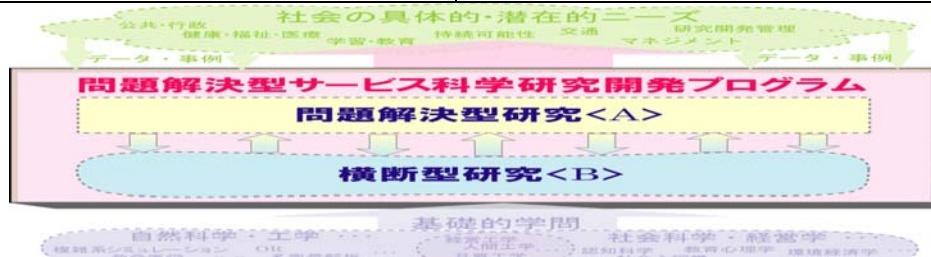
- ・ 以下をよく読んでから記入をお願いします。
  - プログラムの目的及び研究アプローチ(P4~8)
  - 選考要件(P13)
  - 募集・選考にあたってのプログラム総括の考え方(P16~17)
  - 提案書様式とそのポイント(P49~64)

【注意】研究アプローチによって選考要件の重点が異なります。
- ・ “指定されている枚数以内”で記載してください。
  - 各様式の左上部に目安枚数を記載
- ・ 評価者が理解しやすいように“わかりやすく”記載してください。



# 2つの研究アプローチ (P4~8)

	A. 問題解決型研究	B. 横断型研究
概要	<p>具体的なサービスを対象に、サービスに係る問題解決のための技術・方法論等を開発し、問題を解決するとともに、得られた技術・方法論が「サービス科学」の研究基盤の構築に貢献することを目的とする研究。</p>	<p>研究エレメントに焦点を当て、新たな知見を創出し積み上げることで体系化し、「サービス科学」の基盤を構築する。それにより、知見が将来的に現場の様々な問題解決に応用され、サービスの質・効率を高め、新しい価値の創出に貢献することを目的とする研究。</p> <p>「B.横断型研究」の下に、文理融合に重点を置いた研究アプローチのB1タイプ(文理融合型)と、人文・社会科学系に重点を置いた研究アプローチのB2タイプ(人文・社会科学型)を設定。</p>



3

# 研究アプローチと選考要件 (P13)

詳しくは提案書様式とそのポイント (P49~64) 参照



	A. 問題解決型研究	B. 横断型研究
背景	<p>a-1. 研究で対象とするサービスが特定され、そのサービスに係わる、解決すべき問題が設定されている。問題は十分に絞り込まれ、具体的である。(特にA. 問題解決型研究で重視)</p> <p>a-2. 対象とする「サービス科学」の研究エレメントが設定されている。(特にB. 横断型研究で重視)</p>	<p>d-1. 本プログラムの目的に合致している。</p> <p>d-2. 当該制度において実施すべき緊急性、必然性及び、公的資金を用いて実施すべき妥当性を有する。</p>
研究開発プロジェクトの構想・実施計画	<p>b-1. 期待される成果(価値創造)は何で、誰のためのものかが明確である。それが「サービス科学」の基盤構築に資すると考えられ、新規性及び有用性がある。</p> <p>b-2. 誰がサービス提供者や被提供者か、誰がどのような価値を得るのが明確である。(特にA. 問題解決型研究で重視)</p> <p>b-3. 構築しようとする「サービス科学」の研究基盤が、サービスに係る問題解決に貢献すると思われる。(特にB. 横断型研究で重視)</p>	<p>c-1. 分野融合型のアプローチが採用されている。さらに、「A.問題解決型研究」および「B1.横断型研究 文理融合型」は文理融合型の研究アプローチを推奨。一方、「B2. 横断型研究 人文・社会科学型」では、文理融合の有無にかかわらず、主として人文・社会科学系のアプローチであることを推奨。</p> <p>c-2. 多様なステークホルダーとの協働が可能である(特に、サービスの現場と研究者)。</p> <p>c-3. 信頼性のある実データの抽出・利用(又は事例の利用)が可能である。</p> <p>c-4. サービスの提供者と被提供者の間で情報が循環し、研究開発の中でそれが有機的に統合・融合される仕組みが構想されている。</p> <p>c-5. プロジェクトの実施にかかる期間、エフォート、予算が適切である。</p>

4



# 1. 概要 (募集要項P49~50)

- ・ 様式1, A4用紙2枚
- ・ 研究代表者の基本情報(氏名、連絡先等)、研究開発プロジェクトの要旨
- ・ A研究、B1, B2研究のいずれかを選択

## 【ポイント】

概要(様式1)はA4用紙2枚でプロジェクト要旨が把握できるに記述

- ✓ 提案のアピールポイントを明確に
- ✓ 様式2以降は、様式1の補足説明資料

5



# 2. 背景 (募集要項P51)

- ・ 様式2, A4用紙2枚以内

## 【ポイント】

- (1)「サービス科学」の研究基盤構築への貢献に対する考え
- (2)プロジェクトの問題設定とプロジェクト実施の妥当性
  - ①対象サービス・問題、研究成果の価値
  - ②問題は、3年間で解決しなければならないものに限らない
  - ③このプログラムでのプロジェクト実施の必然性・妥当性

6

### 3. 研究開発プロジェクトの構想-1



(募集要項P52～54)

・様式3, A4用紙6枚以内 **～簡潔に～**

#### 【ポイント】

(1)概要：プロジェクトの全体像の可視化－**図示**

(2)研究手法：図示した内容(方法・手段)の具体的説明

- ①分野融合型(特にA, B1は文理融合型)アプローチ、研究手法の説明
- ②研究に必要なデータの取得の可能性
- ③研究の協業の仕組み

7

### 3. 研究開発プロジェクトの構想-2



(募集要項P52～54)

・提案の **新規性、有用性** を明確に記述

#### 【ポイント】(続き)

(3)成果：研究の新規性、有用性、及び想定するプロジェクトの成果

【注意】A・Bの選考要件参照

- ①先行研究、先進事例に対する新規性、有用性
  - 「サービス科学」の研究基盤に関する知見の創出
  - 先進事例に対する価値の創出
- ②想定するプロジェクトの成果
  - 問題解決への貢献、他分野への応用

(4)「サービス科学」の研究基盤構築への貢献

- ①3.(3)「成果」との関係
- ②2.(1)「『サービス科学』に対する考え」との関係

8

### 3. 研究開発プロジェクトの構想-3

(募集要項P52～54)



#### 【ポイント】(続き)

#### (5)倫理的・法的側面の対応策(オプション)

- ①実データ(特に個人情報)取扱い上の、相手方との同意等
- ②成果の公表における制約

・提案に関して倫理的・法的側面等での対応を求められる可能性がある場合のみ記入

#### (6)プロジェクト遂行上の障害となる原因の特定・アクション等

- ①現実的なプロジェクト計画
- ②障害を除去するための対策

9

### 4. 実施計画 (募集要項P55～60)



- ・各様式、A4用紙1枚以内(様式4-4はグループ毎)

#### 【ポイント】

#### (1)プロジェクト全体の計画

～p55の表示形式の使用～

#### (2)研究開発実施体制の全体的な見取り図

#### (3)研究グループ毎の計画

#### (4)資金計画

10



## その他 (募集要項P61~64)

- (1) 多制度での助成金の有無
  - ・様式5 A4用紙2枚以内
- (2) 特記事項
  - ・様式6 A4用紙1枚以内
- (3) 関連する取り組みリスト【参考】
  - ・様式7 研究者毎にA4用紙1枚以内
  - ・主要な実績や経歴を、参考情報として記述。

### 【ポイント】

様式6. 特記事項では、他の様式では伝えきれない内容を自由に記述

11

募集締め切りは  
7月6日(水)正午

**応募をお待ちしています。**



12